

# 地方航空路線活性化プログラムに係る 効果検証に関する懇談会（第2回）

---

## 発表資料（平成28年度取組実施計画（案））

平成28年3月4日

のと里山空港利用促進協議会（事務局：石川県企画振興部空港企画課）

能登～羽田路線（全日本空輸）

「能登－羽田路線持続化プログラム

～地方空港の課題に対応した新たな航空需要の創造～」

# I 取組目標及び取組課題・方針

## 1. 取組目標

### ○取組方針

これまでの利用促進活動(活プロ以外)を継続しつつ、北陸新幹線開業による効果・影響を分析し、より効率的な手法(活プロ事業含む)により路線の維持・拡大を図る。

### ○取組目標・ターゲット(活プロ事業)

当初:トータルで搭乗率+3%(利用者増7,350人/年)



H28:トータルで搭乗率+3%を継続

➤ 約3,500人/半年を実現し、安定的な路線維持を図る。

## 2. 取組の課題

### 課題1:航空需要の掘り起こし

- 開港以来、様々な利用促進策を行っているが、中長期的に空港の更なる活性化を図るためには、能登ならではの素材・体験を組み込んだ旅行や首都圏以外からの誘客により、新たな需要を喚起していくことが必要。

### 課題2:北陸新幹線等との連携

- 新幹線開業後、首都圏から北陸への入り込みは増加したが、必ずしも航空利用の増加には繋がっていない。航空分担率低下の中、今後の路線維持に向けては、新幹線&航空による旅行モデルの構築が必須。  
新幹線イン空港アウト(又は空港イン新幹線アウト)による金沢+能登の周遊観光を促進するとともに、小松空港との組み合わせにより、加賀~金沢~能登を広域的に巡る旅行需要を喚起。

### 課題3:二次交通による利便性確保

- 公共交通網が脆弱な能登半島では二次交通の役割が極めて重要であり、旅行の成否、能登のイメージを大きく左右する可能性もある。旅客のニーズに応じた二次交通を提供し、誘客促進に取り組む。

## 3. 平成28年度の取組方針

### 1. 航空需要の掘り起こし

#### (1) 社会活動型観光プログラムによる空港利用の創出

- 地域資源を活用した社会活動型・体験型観光を促進し、地域ブランドの形成を目指す。
- 社会人や大学生、外国人などをターゲットとした体験ツアーをできる限り増加させ、事業効果の拡大を図る。また、地域づくり関係者等との連携をさらに強化し、活プロ後も継続できる体制を構築。

#### (2) 羽田空港のネットワークを活用した広域乗継

- 航空会社や旅行会社による取り組みとあわせて、乗継利便の周知・認知度向上に取り組み、長期的な視野で乗継利用の促進に取り組む。

### 2. 北陸新幹線等との連携による誘客

#### (1) 新幹線と航空の連携による県内周遊観光の促進

- 新幹線イン空港アウト(又は空港イン新幹線アウト)による金沢+能登の周遊観光を促進。
- 定期観光バスは、採算性や航空利用増加に係る費用対効果を勘案し、見直し。より効果的に、事業目的である新幹線との連携による利用促進を図るため、金沢~空港間のアクセス支援等による団体客の誘致や新幹線と航空を組み入れた旅行商品による個人客の誘客など、ターゲットに直接アプローチできる手法に切り替える。

#### (2) 広域レンタカーの利用促進

- 北陸3県を対象に実施中のキャッシュバックキャンペーンは活プロ後の全域継続に課題もあるため、今後の伸びが最も期待できる金沢に特化。
- 金沢に次ぐ拠点である小松空港とのと里山空港をレンタカーで結ぶ広域的な旅行を提案。

### 3. 二次交通による利便性確保

- 現在実施中のふるさとタクシー+観光タクシー接続利用へのキャッシュバックキャンペーンは見直し(使い勝手が良くないとの声が多い)。
- より効果的に空港利用の増加につなげるため、タクシーで巡るモデルコースの提案や、タクシーを組み込んだ旅行商品による誘客を促進。

**各施策の効果を検証しながら、活プロ後の継続に向けて、地域の体制づくりに取り組み、平成29年度以降の協議会予算に反映**

## II 取組計画

### 1. 航空需要の掘り起こし

#### 1. 取組の実施計画（案）

##### 社会活動型観光プログラムによる空港利用の創出

- (1) 社会的活動に関心の高い層をターゲットとし、能登の地域資源や生活習慣を取り入れた体験型ツアーを実施
  - ・ 社会人 里山里海体験、ローカル鉄道乗車体験、地元の主婦による能登の家庭料理体験等(春～秋)
  - ・ 大学生 地元町内会の方々と祭り体験(日本遺産「能登のキリコ祭り」、夏～秋)
  - ・ 外国人 輪島塗体験、塩田体験、酒蔵巡り、座禅体験等(春)
  - ・ 朝大学 島の暮らし体験等(随時)
- (2) 地域ブランドの形成、イメージづくり  
能登の地域資源の魅力を、能登の総合観光情報誌やポータルサイト等で発信  
→ ぶらり能登ガイドブック・のとねっと(当協議会が発行・管理)、市町HP等を活用
- (3) 活プロ後の継続に向け、地域づくり関係者とネットワークを構築



#### 2. 改善した取組のポイント（方針）

- ・ 新たなメニューを組み込み、ツアー回数を増加  
H26冬ダイヤ:2回 H27夏ダイヤ:2回 H27冬ダイヤ:2回  
→H28夏ダイヤ:3～5回程度(調整中)  
→中高年向けに、能登の家庭に伝わる「うちごはん」をツアーに新たに組み込む

##### 【委員指摘】受入体制の強化、活プロ後の資金面での継続性

- ・ 地域づくりに取り組む団体(※)の参画を得て、地域のネットワークを構築。体験メニューの発掘、受入スキルアップを図りながら、活プロ後も協議会予算で継続できる仕組みづくりに取り組む。

※地域資源を活用したイベント・情報発信や、域外との交流拡大・移住促進に取り組む法人など



## II 取組計画

### 1. 航空需要の掘り起こし

#### 1. 取組の実施計画（案）

##### 羽田空港のネットワークを活用した広域乗継

航空会社や旅行会社による誘客とあわせて、広報活動等を実施し、羽田乗継を活用した首都圏以外からの集客拡大につなげる。（能登：H28夏ダイヤから乗継割引運賃が28区間に拡大）

- (1) 就航先でのPR、プロモーション活動等…九州、四国等
- (2) 乗継利便の周知に向けた広報等

#### 2. 改善した取組のポイント（方針）

航空乗継の利便性の周知・認知度向上を図り、乗継利用の普及・定着を目指す。

**【委員指摘】長期的な視野で継続**

- 航空乗継のさらなる普及のためには、航空会社や旅行会社による取り組みとあわせて、**乗継の認知度向上等に長期的に取り組む必要がある。**
- 乗継利便の周知に向けた広報・PR活動等を実施。（航空乗継利用促進協議会とも連携）

### 2. 北陸新幹線等との連携による誘客

#### 1. 取組の実施計画（案）

##### 新幹線と航空の連携による県内周遊観光の促進

- (1) 新幹線イン空港アウト（又は空港イン新幹線アウト）により、金沢の歴史文化と能登の自然に触れる旅を提案し、首都圏からの誘客を拡大

→ 金沢～空港間のアクセス支援等により団体客を誘致  
→ 新幹線と航空を組み入れた旅行商品により個人客を誘客

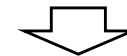
- (2) ホームページ等を活用し、新幹線&航空の旅の情報や優位性（金沢＋能登の広範囲を効率よく回ることができる）等を発信

#### 2. 改善した取組のポイント（方針）

##### 金沢駅～のと里山空港間の定期観光バスの見直し

**【委員指摘】採算性の検討要。準備不足で結果が出ないなら再挑戦に期待。**

- バス利用者は新幹線開業前より増加しているが、冬期は低迷。バス会社や旅行会社は、毎日運行しないと利用者増加は困難（現在は週3日）との意見だが、その場合は採算性確保が課題。また、飛行機に搭乗しない利用者も多い（金沢へ戻るなど）。
- バス事業の採算性や、航空利用増加に係る費用対効果を勘案し、事業を見直し。



往路帰路の交通手段が異なる旅行の需要を喚起するためには、バスを用意するだけでなく、団体や個人それぞれのターゲットに直接、新幹線&航空の旅行を働きかける方がより効果的。（誘客実績を残すことで片道利用の需要を示し、今後の再運行（自主運行又は協議会から一部支援）についてバス会社等と協議したい。）

## II 取組計画

### 2. 北陸新幹線等との連携による誘客

#### 1. 取組の実施計画（案）

##### 広域レンタカーの利用促進

**【委員指摘】この取組は他空港から能登への誘導が目的か。**

能登線より輸送能力が大きい新幹線や小松空港との組み合わせにより、能登＋金沢等の広域流動を生みだし、集客拡大。

##### (1) 新幹線・小松空港との連携

新幹線 → 金沢～のと里山空港のレンタカー料金低廉化により空港の片道利用を促進

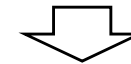
小松空港 → 県内2空港をレンタカーで結ぶ広域的な旅行商品により誘客を促進

##### (2) 加賀・金沢・能登をレンタカーで巡るモデルコースを作成し、 県内周遊・広域利用を情報発信（ホームページ、旅行雑誌等）

#### 2. 改善した取組のポイント（方針）

##### レンタカーキャッシュバックキャンペーンの見直し

- 現在、北陸3県全域～のと里山空港間のレンタカーに対するキャッシュバックキャンペーンを実施。
- 新幹線開業前は小松空港からのレンタカーが最多だったが、現在は、金沢からのレンタカーのシェアが上昇し小松空港を上回っている。活プロ後、全域で継続できるかについては財源が課題。



キャンペーン対象エリアを、今後の伸びが最も期待できる金沢に特化。金沢に次ぐ県内周遊の拠点である小松空港とのと里山空港をレンタカーで結ぶ広域的な旅行を提案。

### 3. 二次交通による利便性確保

#### 1. 取組の実施計画（案）

##### 公共交通（乗合タクシー、観光タクシー等）による能登地域周遊旅行を提案し、需要を喚起

公共交通網が脆弱な能登半島では二次交通の役割が極めて重要。旅客のニーズに応じた二次交通を提供し、誘客促進に取り組む。

##### (1) タクシーで巡る能登の旅のモデルコースを作成し、 情報発信（ホームページ、旅行雑誌等）

##### (2) ふるさとタクシー、観光タクシー等を組み込んだ 旅行による誘客促進

#### 2. 改善した取組のポイント（方針）

##### ふるさとタクシー・観光タクシー接続利用へのキャッシュバックキャンペーンの見直し

**【委員指摘】分かりやすいキャンペーンを。活プロ後の資金面での継続性。**

- キャンペーンの仕組みが分かりにくいという声が非常に多い。また、組み合わせた場合のみ対象という仕組みに対する不満も多く寄せられており、両タクシー接続へのキャッシュバックは中止。



車を使わない旅行者に、公共交通（ふるさとタクシー、観光タクシー等）で効率的に能登地域を巡る旅行を提案。

二次交通を組み込んだ旅行商品をキャンペーンとして展開し、効果的に空港利用に繋げることで、活プロ後の協議会予算での継続を検討。